

耐震強度計算書(アンカーボルト)

1. 機種 = 水冷式パッケージエアコン

2. 形名 = PW-P560DJ3

3. 機器諸元 (図1参照)

- (1) 機器質量 (運転質量) $W = 531$ kg
- (2) アンカーボルト
- ① 総本数 $N = 4$ 本
 - ② サイズ・形状 $= M 12$ 形
 - ③ 1本当たりの軸断面積 (呼径による断面積) $A = 113$ mm² = 78×10^{-6} m²
 - ④ 機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルトの総本数 $N_t = 2$ 本
- (3) 据付面より機器重心までの高さ $H_g = 800$ mm = 0.8 m
- (4) 検討する方向からみたボルトスパン $L = 560$ mm = 0.56 m
- (5) 検討する方向からみたボルト中心から機器重心までの距離 $L_g = 371$ mm ($L_g \leq L/2$) = 0.371 m

4. 検討計算 (各項の小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1) 設計用水平震度 $K_h = 2.0$
- (2) 設計用鉛直震度 $K_v = K_h / 2 = 1.0$
- (3) 設計用水平地震力 $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 = 10407.6$ N
- (4) 設計用鉛直地震力 $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 = 5203.8$ N
- (5) アンカーボルトの引抜力 $R_b = \frac{F_h \cdot H_g - (W \cdot 9.8 - F_v) \cdot L_g}{L \cdot N_t} = 7434.0$ N
- (6) アンカーボルトのせん断力 $Q = F_h / N = 2601.9$ N
- (7) アンカーボルトに生ずる応力度
- ① 引張応力度 $\sigma = R_b / A = 65.8$ MPa < $f_t = 176.0$ MPa
 - ② せん断応力度 $\tau = Q / A = 23.0$ MPa < $f_s = 101.0$ MPa
 - ③ 引張とせん断を同時に受ける場合
ただし、 $f_{ts}' \leq f_t$ のとき $f_{ts} = f_{ts}'$, $f_{ts}' > f_t$ のとき $f_{ts} = f_t$ であるので
 $f_{ts}' = 1.4f_t - 1.6\tau = 210.1$ MPa
 $f_{ts} = 176.0$ MPa
 $\sigma = 65.8$ MPa < $f_{ts} = 176.0$ MPa

(8) アンカーボルトの施工法

- ① アンカーボルトの施工法 = 埋込み式J形アンカー
- ② コンクリートの厚さ = 150 mm = 0.15 m
- ③ ボルトの埋込長さ = 118 mm = 0.118 m
- ④ 許容引抜加重 $T_a = 12000$ N > $R_b = 7434.0$ N

以上の計算結果よりアンカーボルトは十分な強度を有する。
本計算書はアンカーボルトについての強度計算書であり、製品の耐震強度を保証するものではありません。

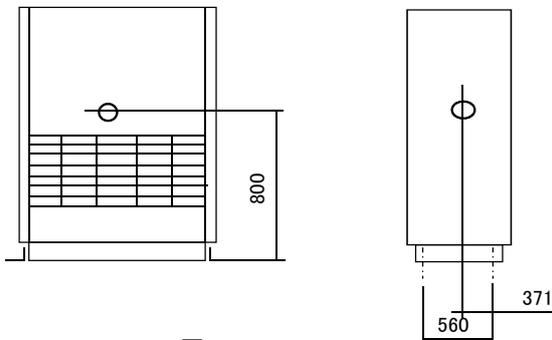


図1

三菱電機株式会社	作成日	2017/2/13	仕様書番号	WYNB1-2766	副番	A
----------	-----	-----------	-------	------------	----	---